

令和7年度 高等部の教育目標及びめざす生徒の姿と重点事項

学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行い、生きる力や可能性を限りなく伸ばし、自立と社会参加に向けて心豊かに生きる児童生徒を育成する。
学部教育目標	青年期の心身の発達状態を踏まえ、教育的ニーズや特性、能力等に応じたきめ細かな教育を行い、主体的に自分のよさを発揮し、心豊かに自立と社会参加ができる生徒を育成する。

学校がめざす児童生徒像	学部がめざす生徒の姿と重点事項	
心身共に健やかな児童生徒	1	自己の健康、安全管理や運動に関心のある生徒
	重点目標	(1) 学校生活における感染症対策を継続しつつ、新しい生活様式を踏まえた健康の維持（生活リズム、体調管理、衣服の調節等）を意識し、実態に応じて自己管理するための適切な指導を行う。 (2) 外部講師やカウンセラー等を計画的に活用し、日常生活の指導、生単等学校生活全般において、生徒の実態を踏まえた青年期における「性に関する指導」の充実を図る。 (3) 保健体育（合同体育）の実施や各種スポーツ大会への積極的な参加など、生徒個々の実態に応じた体力づくりを行い、生涯スポーツへの興味・関心を高めるための改善と指導内容や手立ての工夫を行う。
互いの良さを認め合い、集団の中で自分の力やよさを発揮する児童生徒	2	自他のよさが分かり、自ら協力し高め合える生徒
	重点目標	(1) 生徒の実態に応じた「作業学習」の指導内容の工夫・改善など、諸課題を明確にし、全ての生徒が職業意識を高めることのできる学習環境作りを行う。 (2) 人権を尊重し、社会人としての場に応じた挨拶や言葉遣いのモデルを教示し、生徒自ら生活場面で生かすことができるようにする。 (3) 生徒指導の3機能（「自己存在感」と「自己決定の場」を与え、「共感的な人間関係」の育成）を意識した授業実践を行い、「自己指導能力」の育成を図る。（生徒指導心得の活用）
発達に応じた知識や技能を身につけた児童生徒	3	課題に気付き、改善に意欲をもつ生徒
	重点目標	(1) 個別の指導計画を担任間や保護者と共有し、生徒自身が「何ができるようになるか（目標）」「何を学ぶか（内容）」「どのように学ぶか（方法）」の視点を明確化した授業を行い、家庭と連携して共通実践する。 (2) 生徒の障害特性や興味・関心に応じて、ICT 機器等を効果的に活用した分かる授業を実践する。 (3) 生徒の「やりがいや生きがい」につながる活動（各種大会や各種検定、作品募集）の充実を図る。
様々なことに興味・関心をもち、自ら関わる児童生徒	4	自分の役割が分かり、学習の成果を実践できる生徒
	重点目標	(1) 校外学習や修学旅行等の行事を通して、地域の人材や教育的資源及び公共施設（交通機関）等の活用の充実を図る。（「共生社会」実現のための基盤づくり） (2) 職場見学や社会見学、産業現場等における実習、保護者との情報共有、外部講師による指導、進路先との連携などを通して、将来の生活を見据えた進路指導や職業教育の充実を図る。 (3) 本人・保護者の現在及び将来の充実した生活のため、関係機関と連携（連絡会、ケース会議、支援会議等）した家庭支援を行う。